

# 合同コンパ場面における日本語母語話者の話題導入と気遣い

宿利 由希子(神戸大学大学院生) / 日本学術振興会

## 1. はじめに

これまで、言語学やコミュニケーション研究において、性差の存在が指摘されてきた。女性に比べ男性が、下位者に比べ上位者が、会話の主導権を握り話題を導入する傾向があること(Maltz &orker, 1982; 宇佐美他, 2014)、また男性上位者は自己に関する話題導入(以下、話し手志向的話題導入)を、女性上位者は聞き手に関する話題導入(以下、聞き手志向的話題導入)を行う傾向があること(三牧, 2013)が報告されている。これらの傾向は話者間に共有された「社会規範(三牧, 2013)」または「基本状態(宇佐美, 2008)」であり、「コミュニケーションにおける丁寧さ」に繋がるものと考えられてきた。コミュニケーションにおける丁寧な行為とは、相手が持つ『他者に受け入れられて面子を保ちたい』『他者に干渉されて面子をつぶされたくない』という2つの意向を尊重する行為であり、専門的には「ポライトネス」と呼ばれる(Brown & Levinson, 1978/1987 他)。では、「社会規範」や「基本状態」の傾向とは異なる行動を取る行為者、すなわち、話し手志向的話題導入の多い女性や聞き手志向的話題導入の多い下位者の男性は、他者からどのように認識されるのであろうか。

そこで本研究は、従来指摘されてきたコミュニケーションにおける性差の傾向とは異なった方法で気遣いを示す行為者が、他者にどのように認識されるのかを明らかにするため、話題導入に注目し、日本語母語話者による合同コンパ(以下、合コン)の会話を観察する。合コン場面を扱うのは、初対面・非初対面の人たちが、今後の関係の発展性を探りながら、一定時間雑談をして、親交を深めていく様子、また自然に気遣いを示す様子が観察できると考えたためである。

## 2. 調査の概要

2017年7月に大阪の居酒屋で、日本語母語話者の男性3名(M1, M2, M3)、女性3名(F1, F2, F3)による合コン場面をICレコーダーとビデオカメラを用いて約150分収録した(合コン参加者に関する情報は表1参照)。

表1 合コン参加者に関する情報

	M1 (男性)	M2 (男性)	M3 (男性)	F1 (女性)	F2 (女性)	F3 (女性)
年齢	30代前半	20代後半	30代前半	30代前半	30代前半	30代前半
出身地	大阪府	広島県	大阪府	奈良県	奈良県	奈良県
交友	M2・M3	M1	M1	F2・F3	F1・F3	F2・F3

次に、収録データのトランスクリプトから、話題導入の回数とその志向性を調べた。本研究では、話題を、会話の中で導入・展開された、内容的に結束性を有する事柄の集合体(三牧 2013)とし、参加者1名が話題候補を導入しても、他の参加者が相づちだけで、その内容をそれ以上取り上げない場合は考察対象から除外した。志向性については、話し手に関する話題および話し手を含む複数人に関する話題を話し手志向的話題導入、1名または複数の聞き手に関する話題を聞き手志向的話題導入とした。聞き手志向的話題導入については、特定の1名に対する発話なのか、複数に対する発話なのか区別がつきにくいいため、本研究ではこれらを区別しないこととした。また、出された料理や飲み物についての話題は、話し手・聞き手志向とは区別し、現状に関する話題導入として数えた。それぞれの例を(1)(2)(3)に示す<sup>1</sup>。

### (1) 話し手志向的話題導入

→01 F1: 私3年広島に住んでたことがありますよ。

02 M2: あ: そうなんですか。なんで、なんで。いつですか

### (2) 聞き手志向的話題導入

→01 M2: 皆さん出身は、関西、

02 F3: 関西です。

03 M1: あ:

<sup>1</sup> データの転写は、すべて高木他(2016: 27-37)を参考に行っている。「[ ]」は音の重なり、「=」は発話の密着、「(m)」は0.2秒より長い間、「。」は語尾の音調が下がっている場合、「。」は音が少し上がって弾みが付いていて続きがあることを予測させる場合、「?」は語尾の音が上がっている場合、「f」は語尾の音が上記の擬音符を付けるほどには上がっていないが多少上がっている場合、「:」は音の引き伸ばし、「文字」は発話の音量自体が大きい場合、「文字」は声が小さい部分、「h」は呼吸音および笑い、「(h)」は笑いながら産出される発話、「( )」は聞き取りが困難な発話を示す。

### (3) 現状に関する話題導入

- 01 M3: (5.0) ただなんかこの緊張感すごいな。  
02 F2: [hh]  
03 F1: [hh] 書類から書き始め.

## 3. 調査結果

分析の結果、最年少の男性 M2 による話題導入数が最も多く、その約半数が聞き手志向的であること、話し手志向的话题導入数は男性 M3 と女性 F2 によるものが同数で最も多いことがわかった (表 2 参照)。また、M2 と F2 による話題導入は、先行研究の指摘する傾向とは異なるが、相手の面子を脅かすことのない丁寧な気遣いであることがうかがえた。

表 2 話題導入数と志向性についての結果

	M1	M2	M3	F1	F2	F3
話し手志向的	22 回	23 回	28 回	12 回	28 回	9 回
聞き手志向的	15 回	41 回	21 回	21 回	21 回	8 回
現状	1 回	11 回	2 回	9 回	0 回	2 回

次の(4)は M2 の聞き手志向的话题導入の例である。1 行目で M2 が M1 に調査者との関係性を確認する話題導入をし、4 行目で女性 3 名に同様の質問で話題導入をする。F1 の回答を受け、7 行目で M3 も質問をし、しばらく調査者についての会話が活発に行われる。M2 の話題導入が、男性・女性の壁を取り払う役割を果たす気遣いであることが見て取れる。

### (4) M2 による聞き手志向的话题導入の例

- 01 M2: どういう、つな、セッティングはどうなってるんですか M1 さん、つながりい  
02 M1: (せ: じん)は宿利さんから[, M3] くんが発信があって、M3 くんから僕に、来て、M2 くんにつながった感じ。  
03 M2: [はい]  
→04 M2: あ: (4.0)女性陣もそんな感じなんですか?  
05 F1: 宿利さんと[同じ]職場の人が私の友達で[その友達から]連絡が来て、ここは友達です。  
06 M2: [はい] [あ: なるほど.]  
07 M3: あ: じゃ: あんまり宿利さんとは直接関わりは、  
08 F1: 今日初めて会いました。  
09 M3: そうなんですか。

次の(5)は F2 による話し手志向的话题導入の例である。1・2 行目の F1 の発話に対し 4・6・8 行目で F2 が不同意を示す。7 行目の M2 の「なんかいきなり突き放した」や 14 行目の沈黙、15 行目の M2 の唸りなどから、F2 の不同意をどのように扱ったらいいかかわからないという男性たちの気まづさが垣間見える。16 行目で F2 が女性 3 名の関係性を説明する自己志向的话题導入を行う。その後、女性 3 名の会話はかみ合わずよく不同意を示し合うことが判明し、男性たちもその関係性を面白がる。F2 の話題導入は、女性陣に関する男性陣の理解を促し、男女の壁を取り払うための気遣いであると言える。

### (5) F2 による話し手志向的话题導入の例

- 01 F1: そんなに 1 つの事考えて、  
02 真剣に考えて生きてない。hh  
03 M2: [あ: そうすよね。]  
04 F2: [そうや、確かに。] そうやな。F1 そういやそうやな。  
05 F1: あ、私、が? あ、  
06 F2: 私考えてるよ。  
07 M2: なんかいきなり突き放した。  
08 F2: F1 よりは考えてる。  
09 F1: あ、あ: ほんま。  
10 M1: F1 よりは、hh  
11 F1: [hh]  
12 F2: [hh]  
13 F3: [hh]  
14 F1: (6.0) かもね:  
15 M2: う:ん  
→16 F2: この前、こう、喫茶店に行っていて、  
17 M2: [はい]  
18 F3: [うん]

19 F2: うん, 3人が[, 全]然違うことしゃべってた. hh  
20 M2: [はい]  
21 F1: [hh]  
22 F3: [hh]

23 M1: え, 全く噛み合わん状態で?  
24 M2: あ: , この3人で行って(h)て: (h)  
25 F2: 自由にしゃべってるみたいな.  
26 F3: う:ん

では, 先行研究の指摘するコミュニケーションの性差の傾向とは異なる気遣いを見せるM2やF2は, 他の参加者にどのように評価されているのであろうか. 参加者たちは, 男性M2を「営業(さん)」, 女性F2を「ツッコミ」と呼んでいた. 次の(6)はM3がM2を「営業」と呼び(10行目), M1や女性たち, 最後にはM2もその指摘を受け入れる会話部分, (7)はM2が女性3名の関係性を「ボケ(F1)・ボケ(F3)・ツッコミ(F2)」であると指摘する(9・10行目)会話部分である.

#### (6) M2が「営業(さん)」と呼ばれる場面

01 F1: 写真撮ってどうするんですか?  
02 M2: ラーメンの写真撮ってですか?  
03 M1: hhh  
04 M2: いやでもそれは, あのFacebookとかあげる, とかじゃ  
05 なくて, ラーメン好きの人がいた時に, ネタちょっと  
06 こう, [僕ここ]のラーメン食べましたでっていう.  
07 M3: [ああ ]  
08 F2: [ここの]ラーメンやでって.  
09 F1: へ:  
→10 M3: 営業すね.  
11 M2: hh ラーメン営業しても全然あんまり  
12 [°(ないんですけど). ]  
13 M1: [hhhhh ]

14 M3: 話のネタとして.  
15 M2: [はい]  
→16 M1: [営業]さんやね.  
17 F1: 盛り上がりますもんね話.  
18 M2: そうすね. ラーメン好きの人は特に,  
19 なんかこう, おわってなるんで.  
→20 M1: でも営業さんは雑学のネタが多い方が.  
21 M2: [う:ん]  
22 F1: [う:ん]  
23 M1: う:ん, 絶対, ラーメンであれ何であれ.  
24 F1: う:ん  
25 M2: そうすね. 本当に.

#### (7) 女性3名が「ボケ・ボケ・ツッコミ」と呼ばれる場面

01 F1: 私がぼそぼそ変なことしゃべってるのが入る, から  
02 あげる.  
03 F2: ちょっともう意味がわからへん.  
04 F1: [hhh]  
05 F3: [hhh]  
06 M3: M1 食べる?これ.  
07 M1: あ, もう, 3つぐらい食べたよ俺.  
08 M3: 大丈夫;

→09 M2: (5.0)あれなんすね, 普段は, ボケボケツツ  
10 コミみたいな.  
11 F1: [ボケ]じゃないよな. hh [ボケてないよね ]  
12 F3: [hhh ]  
13 M2: [え, (h)違う? ]  
14 F2: [天然 天然. ]  
13 F1: 至って真面目やな. hh

## 4. 考察

調査の結果, 聞き手志向的話題導入数は最年少の男性M2によるものが最も多いこと, 自己志向的話題導入数は女性F2によるものが男性M3と同数で最も多いこと, 他の参加者はM2の男性を「営業(さん)」, F2の女性を「ツッコミ」と呼んでいることが明らかになった. 本節では, 聞き手志向的話題導入数の最も多い男性M2が「営業(さん)」, 話し手志向的話題導入の最も多い女性F2が「ツッコミ」と呼ばれていることについて考察するため, 「キャラ」という概念を用いる. キャラとは, 「スタイル以上, 人格未満」の状況に応じて変わる人間(定延, 2011)であり, 社会的・文化的にある程度共有された年齢や性別, 職業, 階層, 容姿・風貌, 性格などの人物像である.

ラーメンの写真を雑学のネタとして撮っているという話の流れから, M2は「営業(さん)」と呼ばれた. M2の職業は確かに営業職であるが, ラーメン自体を営業しているわけではない. 話題の豊富さは良い営業職の特徴とされることもある(例えばキャリアコンパス)が, 営業職でないF2やM3, M1も自己志向的話題導入の多く話題が豊富であった. そのため, ここで褒め言葉のように使われる「営業(さん)」という呼び方は, ラーメン好きの人のために写真を撮るというM2の聞

き手志向的言動に向けられたものであると考えるほうが現実的であろう。聞き手志向的言動は、話題の豊富さ同様良い営業職の特徴の一つとされている (ibid)。仕事を離れた合コン場面でも現れている M2 の聞き手志向的言動と、ラーメンの写真を撮るといった聞き手志向的言動が重なり合い、内面化した「営業(さん)」らしい特徴として評価されたと考えられる。次に F2 の「ツッコミ」について、参加者全員が「つつこむ」という言語行動を実践していたにもかかわらず、「ツッコミ」と呼ばれたのは F2 だけであった。これは、F2 が話し手志向的话题導入により女性陣に関する男性陣の理解を促す行為と、「つつこむ」ことにより会話を聞き手の理解できる位置に戻す「つつこむ役回り」の特徴(金水, 1992)とが一致していたためと考えられる。つまり、「つつこむ」ときだけでなく、話題導入の際も F2 の言動は「ツッコミ」らしい特徴として評価されたということである。

このことから、観察された「営業(さん)」「ツッコミ」は、「営業する」「つつこむ」などの言語行動自体や、「営業職」「つつこむ役回り」といった役割と密接に関係するが、必ずしも一致しない「キャラ」であると考えられる。キャラは多様であり(瀬沼, 2005)、それゆえ「社会規範」や「基本状態」と異なる行為者を単なる「逸脱」と捉えるのではなく、「この人はこういうキャラだから」とその言動を理解・評価するための材料になり得る。本研究の会話から、参加者たちが M2 や F2 の話題導入を含む言動を、性別などの属性ではなく「キャラ」から理解・評価しようとしていることが観察できたとと言える。

## 5. まとめ

本研究は、合コンの会話データを用い、従来指摘されてきたコミュニケーションにおける性差の傾向と異なる方法で気遣いを示す行為者が、他者にどのように認識されるかを観察した。その結果、聞き手志向的话题導入数は男性 M2 によるものが最も多いこと、自己志向的话题導入数は女性 F2 によるものが男性 M3 と同数で最も多いこと、他の参加者は男性 M2 を「営業(さん)」, 女性 F2 を「ツッコミ」と呼び、彼らの話題導入を含む言動をその「キャラ」から理解・評価しようとしていることがわかった。本研究の観察は、行為者に関する過度な一般化を和らげ、コミュニケーションの諸相をより現実的に捉える一歩になると考える。

但し、本調査は合コン一回分の会話データおよび観察による分析であるため、断定的なことは言えない。今後、他の参加者による合コンの会話データを収集し、分析していく必要があるであろう。

**謝辞** 本研究は、日本学術振興会の特別研究員奨励費による研究「コミュニケーションにおける丁寧さに関する齟齬について」(課題番号: 17J04518)の成果を含んでいる。ここに感謝する。

## 参考文献

- Brown, P., & Levinson, S. C. (1978/1987). *Politeness: Some Universals in Language Usage*. Cambridge: Cambridge University Press. [ブラウン, P & レヴィンソン, S. C. (著). 田中典子・斎藤早智子・津留崎毅・鶴田庸子・日野壽憲・山下早代子 (2011 訳). ポライトネス: 言語仕様における, ある普遍現象 研究社]
- キャリアコンパス by DUDA, 「なんであいつは成績いいの…?」を徹底解剖。できる営業【7 つ】のコツ, <https://doda.jp/careercompass/compassnews/20161104-26353.html>, 20180703 最終確認
- 金水敏 (1992). ボケとツッコミ-語用論における漫才の会話の分析- 上方の文化-上方ことばの今昔 **13**, 61-90.
- Maltz, D. N. & Borker, R. A. (1982). A cultural approach to male-female communication. In John J. Gumperz (ed.) *Language and social identity*, 196-216. Cambridge: Cambridge University Press
- 三牧陽子 (2013). ポライトネスの談話分析 くろしお出版
- 定延利之 (2011). 日本語社会のぞきキャラくり 三省堂
- 瀬沼文彰 (2007). キャラ論 Studio Cello
- 高木智世・細田由利・森田笑 (2016). 会話分析の基礎 ひつじ書房
- 宇佐美まゆみ (2008). ポライトネス理論研究のフロンティア-ポライトネス理論研究の課題とディスコース・ポライトネス理論- 社会言語科学, **11**(1), 4-22.
- 宇佐美まゆみ・野口英美・木林理恵 (2014). 初対面二者間会話における話題導入と展開のプラクティス: 対話相手との年齢差・性差に着目して 言語・音声理解と対話処理研究会, **71**, 23-28.